

特定非営利活動法人

さがみはら市民会議 会報

2007年8月

7月定例会開催

～ 報告 ～

「サポセンのこと見直そう」

7月25日（水）相模原市民会館会議室にて

本年度最初の定例会が開催されました。テーマは「サポセンのこと見直そう」。私たちは2002年10月のさがみはら市民活動サポートセンター開所のその時から、サポセンの運営に関してきました。以来、2回、運営団体として名乗りを上げ、来年の3月で2回目の契約が終了します。

そこで、次年度以降に向けて、私たちがサポセン運営を行うことの意義をもう一度確認し、もし改善すべきことがあればそれを明らかにすることを目的として、定例会を開催しました。

定例会の流れは以下の通りでした。

- ①2004年サポセン運営受託時のプレゼンテーションでは何をアピールしていたか？
- ②サポセンのスタッフがサポセンの運営をどう見ているのか？ アンケート結果とスタッフのコメントから
- ③利用団体からみたサポセンの評価は？
- ④行政から見たサポセンの評価は？
- ⑤出席者によるフリートーク

3年前、市民会議は何をアピールした

発表：伊藤信吾

これまでの成果と反省点

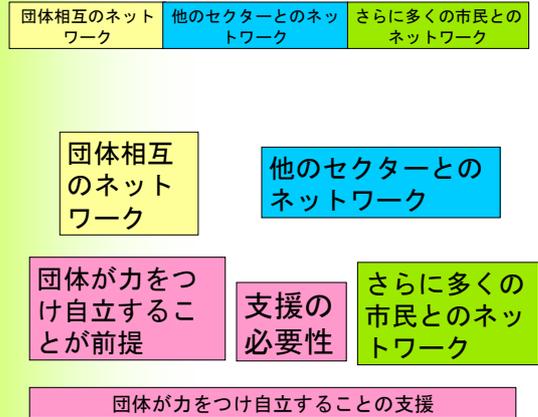
反省点

- 1 サポートセンターの現実の利用団体のさらなる増加が必要
- 2 事務局長を中心とする運営体制が構築できなかったこと
- 3 相談業務を中心とした市民活動支援体制のさらなる充実が必要
- 4 NPO間を越えて、他のセクターや市民へのアピールが必要

利用者が育てる運営、さがみはら市民会議の特質を生かした運営を基本理念にうたいこんでいました。そして、その前の2年半の反省点を示していました。

今後の運営の方向性は他のセクターとのネットワークとそのための団体の自立支援を大きな目標として、具体的な事業を組み立ててきました。

今後の運営の方向性



内部からみた評価はどうか

発表：西本 敬
神田廣志

では、サポセンの現状について、日常を支えているスタッフはどのように見ているのだろうか。スタッフにアンケートをお願いしてみました。アンケート項目は、①窓口対応やサポセンの役立ちについて、②さがみはら市民会議との関係について、③利用者との関係について、④事務局の運営体制について、⑤サポセンの市民への浸透について、⑥これからのサポセンについて、以上の6項目でした。

窓口対応と役立ち

アンケートの結果は概ねよい評価のようでした。窓口での対応についてはほとんどがまあまあ良くできている、かなり良くできているという回答でした。これは、スタッフ自身のスキルアップ努力の結果と見ることができます。また、ホームページ、さぽせんナウ、掲示、メルマガなどの情報提供にも工夫がなされてきたことにも裏打ちされており、さらに、これらに対して課題意識（改善の意欲）が明確に見られることは特筆に値し、スタッフのモラルの高さが見てとれます。

さがみはら市民会議との関係

一方で、さがみはら市民会議との関係については、運営での一体感、会員の特徴を生かした運営などの点で不満感が表明されており、市民会議が目指したことが必ずしも達成されていないものと思われます。

利用者との関係・運営体制

利用者との関係においては、分野別団体の会合に代表されるような連携への試みを評価し、強化したいとしており、サポセン設立当初の時代から進歩してきているこ

とがうかがわれます。事務局の運営体制については、事務局長制度が非常にうまく機能しているとしており、局長を補佐できる人材の配置という改善要望もあるものの、これはこの3年間の成果と言えそうです。

サポセンの浸透とこれから

サポセンの浸透についてはまあまあ浸透しているという意見が多数を占めており、浸透していないという評価とあわせ、他の項目のような良い評価ではないようです。また、これからのサポセンについては現在の強み弱みをよく理解した上で、かなり高いレベルでの課題意識があり、定量的な目標設定を行った上で、評価できるようにすべきとの意見がありました。

利用団体はどう見ているのか

さがみはら教育応援団 吉川和代 様
パラボラ相模原 古川繁子 様
市民オンブズマン 赤倉昭男 様

団体の皆様からは、違った角度から厳しい意見が出されました。以下にその一部を紹介します。

- ・団体の支援とはいうものの、場所と情報流通がまず第一で、抱える課題はそれぞれ異なるので、支援の対象にはなりにくいのではないのでしょうか。
- ・自主的なかたちで高い質が求められるマネジメントやコーディネートのスキルは果たして得られるものでしょうか。
- ・南地域に団体がたくさんあるので、南にもサポセンが必要ではないだろうか。
- ・どんな専門性を持った人たちがサポセンに関係しているのか、もっとそういう履歴情報が知りたい。また、スタッフの名前を掲示するなど、知られる努力をして欲しい。
- ・相模原のスタッフはマナーや融通性がいいと思う。

行政からのコメント

サポセン開設当初の

パートナーシップ推進課長 渋谷 勝美 様

渋谷様からは以下のメッセージが届けられました。

- ・当初は市直営か関係団体への委託かとの議論があったが、企画コンペを経て現在のようなさがみはら市民会議による運営となった。
- ・当初はズレもあったが、現在、サポセンの機能は満たされている。当初は市民会議の団体運営とサポセン運営の区分をするよう行政から要望する場面もあった。
- ・利用団体からのニーズの把握、団体相互のネットワーク作りの方向性が継続されている。
- ・市民会議の基本理念「新しい市民社会の実現」へ今後

も歩みが進められるだろう。

- ・情報提供は充実したものになってきた。
- ・市からの委託という枠はあるが、行政・市民・市民団体それぞれの役割を議論していく必要がある。

市民協働推進課長 片野 憲治 様

片野課長からは以下のご発言がありました。

- ・情報の収集と提供について多彩な方法で充実が図られている。今後、さらに市民人材バンクの開設が進んでいる。
- ・相談業務においても信頼されている。
- ・多様な学習機会が提供されている。今後は、参加者の状況にあった、ターゲットを絞った講座が必要。
- ・交流・連携の機会を作りだしていることは評価できる。
- ・利用者は数だけでなく質の向上が見られる。
- ・NPOと自治会・企業との橋渡しなどの取り組みに期待。
- ・サポセンは広い市域に対応できるようにしたい。

フリートーク

最後に、今までの発表を受けて、自由な討論が行われました。その一部を以下に紹介します。

- ・フリースペースもよいが、込み入った相談が可能な閉じられたスペースも必要と思う。
- ・今後とも、市当局もサポセンの評価に加わり、共によりよいサポセン作りを協働で担うというスタンスが重要である。市民の要望に行政が応えるというだけではいけない。



- ・自治会との連携にしても、市民協働推進課が事務局を担っていることもあり、今後は展開が考えられる。

- ・市民会議としては、サポセンの現場から出発して考えるスタンスも必要である。もっと、余裕のある人的構成を考えるべきである。
- ・他団体がサポセンの運営を行えるような状況作りもやるべきである。予算面で厳しいため他に受け手が出てこないという現実もある。

定例会は、企画が政策情報委員会、実施の世話は総務委員会という変則体制で行いました。結構ややこしく、改めて協働の難しい面を意識しました。

「サポセンが円滑に運営されればそれでよし」ではない。私たちの問題として考えることが必要です。会員の意識をもう少し現場にとの声が印象的でした。 TN